

【誤】

14 ページ 解説第 4 段落

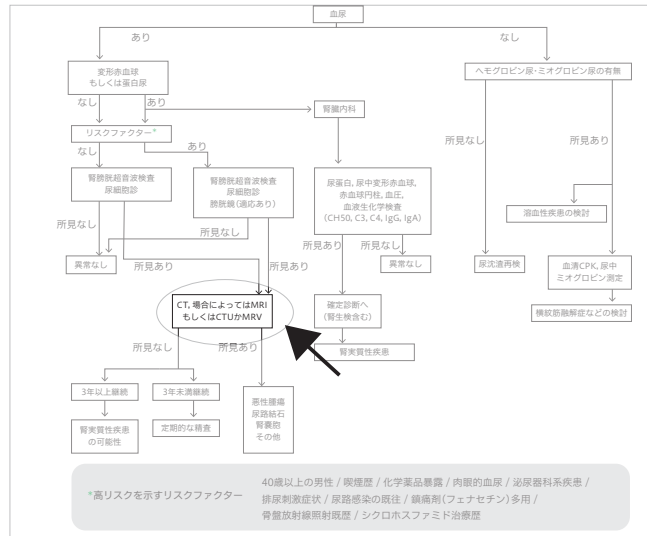
試験紙法による尿潜血反応はヘモグロビンと反応する peroxidase 活性を利用したもので、ヘム蛋白関連のものとして、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿があれば、尿中に血尿がなくとも陽性となる。そのほかヘム蛋白の代謝産物としては、ホモゲンチジン酸、ポルフィリン、メラニンが尿中にあると陽性となる。一方、薬剤としては、サリチル酸、サルファ剤、ソルビトール鉄、ニトロフラントイン、メチルドパ、レボドパ、メトロニダゾールなどの服用中は陽性となり、それら薬剤の使用の有無を確認する必要がある。一方、アスコルビン酸（ビタミン C）の大量摂取で偽陰性を示すこともある。

【正】

試験紙法による尿潜血反応はヘモグロビンと反応する peroxidase 活性を利用したもので、ヘム蛋白関連のものとして、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿があれば、尿中に赤血球がなくとも陽性となる。そのほか細菌、白血球中に含まれるペルオキシダーゼ、精液中に含まれるジアミノキシダーゼなどがあれば陽性となる。一方、アスコルビン酸（ビタミン C）の大量摂取で偽陰性を示すこともある。

21 ページ

図 2 顕微鏡的血尿の診察の進め方



【誤】:「CT, 場合によっては MRI もしくは CTU か MRV」

【正】:「CT, 場合によっては MRI もしくは CTU か MRU」